

# 豊田地区

## ～地図～



### 地区の概要

- ・【場所】 区の北西部に位置しています。
- ・【面積】 約5km<sup>2</sup>。区内で一番大きな地区です。長尾台町、田谷町、金井町、飯島町、長沼町、本郷台の6つの町で構成されています。
- ・【人口】 28,652人（平成27年3月末時点）。区内で一番人口の多い地区です。
- ・【歴史】 「豊田」という地名は、地区の間に流れる柏尾川によって豊かな田んぼが多く、その周辺に集落ができ、栄えたことからきています。
- ・【特徴】 J R東海道線や柏尾川に沿って東側は主に住宅が多い地区、西側は工業地帯となっており、農地が多く残っている地区には水田も見られます。ほとんどの地区で高齢化が進行していますが、新しい住宅開発などで若い世代が増えている地区もあります。

### 課題など

- ・自治会・町内会ごとに取り組んでいる内容に違いがあり、情報の共有が必要になっています。
- ・地域の中でも高齢化率が最も低い地区（20.0%）と最も高い地区（43.8%）で高齢化率が大きく異なっており、それぞれの地域に合わせて対応をしていくことが重要です。（平成27年9月末時点）
- ・14歳以下の人口は区全体の20%以上を占めており、子育て世帯も多く、支援の必要な家庭もあります。

## 策定経過

○取組主体：豊田地区地域支えあい連絡会

☆豊田地区社会福祉協議会 ☆豊田地区連合町内会自治会

【町内会自治会（18町内会）】

飯島町内会、富士見台自治会、飯島団地自治会、飯島ひかりが丘自治会、芙蓉台自治会、百合ヶ丘自治会、本郷台自治会、金井町内会、田谷町内会、長尾台町内会、コープ野村戸塚長沼自治会、長沼町内会、栄リベラヒルズ自治会、みどり野ハイイツ自治会、かいがら坂ハイイツ自治会、ニューシティ本郷台パークヒルズ自治会、エコヒルズ横浜自治会、ワンダースケープ自治会

【各種団体】

民生委員・児童委員、シニアクラブ、友愛活動推進員、消費生活推進員、子ども会、青少年指導員、保健活動推進員、更生保護女性会、食生活改善推進員

【ボランティアグループ】

ミニデイサービス、サロン、配食グループ、子育て支援団体

【その他】

小学校、中学校、関係機関

○会議の開催状況（平成26年度～平成27年度12月末まで）

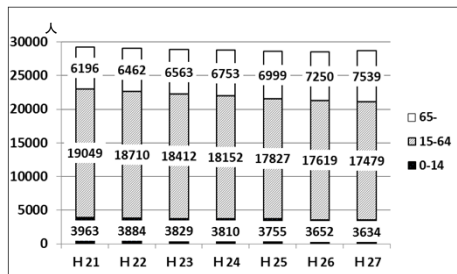
各委員会において、テーマごとに2期の推進及び3期計画の策定を行いました。

- ・地域支えあい連絡会：全7回。地区懇談会を開催し、3期計画の推進を行いました。
- ・要援助者支援ネットワーク委員会：全14回。
- ・子どもネットワーク委員会：全11回。
- ・あいさつ運動推進委員会：全10回。
- ・広報編集委員会：全9回。「ふれあい豊田」の発行を通して、3期の進捗状況を地域に広めました。

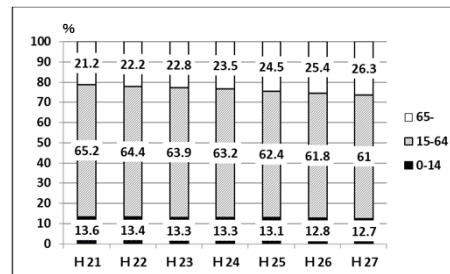
○こんなまちにしたい

- ・交流の場を充実し、自然に声をかけあえるまち
- ・地域で子どもを大事に育てるまち
- ・地域みんなが元気ですごしているまち
- ・自分の住むまちに対する関心が高く、地域活動が活発なまち
- ・災害時に備える意識が高いまち

## 豊田地区の統計データ



○総人口推移（平成27年3月末時点）



○年齢構成推移（平成27年3月末時点）

### 【地区の特徴】

- 平成21年から平成27年までに、0～14歳の人口が329人、15歳～64歳の人口が1,570人減少した一方で、65歳以上の人口が1,343人増加しました。
- 高齢化率は26.3%と平成21年から5.1%増加しました。
- 約10年後の平成37年には65歳以上の人口が8,000人を越え、30.8%になると推計されています。

## 地域のアピールポイント



▲子育てサロン「の～びのび」



▲地区懇談会



▲豊田みよりの集い



▲広報誌「ふれあい豊田」



▲豊田ふれあいフェスティバル



▲あひさつ運動推進のぼり旗

# 第3期 豊田地区 地域福祉保健計画(平成28年4月～平成33年3月)(案)

スローガン: みんなで見守りあい、みんなで支えあう・・・“お互いさまがあたりまえ”

テーマ	現状・課題	将来像(目標)	取組内容	取組体制
<b>【重点取組】</b> 交流の場を充実させ、自然に声をかけあえるまちづくりをすすめよう	<b>【日常の見守り】</b> ・見守りたいと思っても、見守られる側からの発信がない ・地域で孤立している人の把握と支援が必要 ・あいさつ運動をとおして見守りの意識は高まり、地域にも広がりつつある  <b>【交流の場づくり】</b> ・より身近な地域で集える場が必要 ・近所づきあいが減っているため、世代間交流の場を増やし、つながり合える、助け合える地域づくりが必要 ・サロンや地域行事への参加者が固定化している  <b>【活動者】</b> ・担い手の高齢化が進んでいる ・各年代が活躍できるような役割分担が必要 ・退職後の活躍の場と地域活動への意識づけが必要  <b>【障害】</b> ・障害者の理解、啓発が不十分である  <b>【高齢】</b> ・認知症の方の家族が介護の悩みを相談する場が必要 ・介護が必要な人とその家族に対する地域での支援を継続する必要がある  <b>【生活困窮】</b> ・生活困窮者の現状が把握できていない	○身近に見守り合える風土ができている  ○誰もが地域のことに関心を持ち、語り合える場ができている  ○障害や認知症の理解が進み、共存、共生できる地域となっている  ○シニア世代とこどもの交流の場が増え、支えあいの気持ちが広がっている  ○あいさつロードの実施箇所が増え、自然にあいさつしあえるまちになっている  ○あいさつ運動への参加者が増え、それをきっかけに、地域のコミュニケーションが深まっている  ○あいさつをとおして、地域で顔見知りが増えることで防犯対策につながっている	☆住民どうしの助けあいの仕組みづくりをすすめる ・身近な地域の助け合い活動の立ち上げ ☆多様な交流・活動の場の充実 ・集会所、町内会館・自治会館、空家等の活用 ・サロンなどの交流の場の充実 ・世代、年齢を問わない担い手づくり ・退職後の男性を地域活動へ巻き込む、仲間づくりの機会をつくる ☆障害の理解を深める機会の充実 ・啓発講座・障害者施設の見学実施、外部講座への参加 ・地域ケアプラザで実施する事業への協力や交流の機会をつくる ・PTA等、様々な対象者別の勉強会の検討 ・地域、学校、福祉施設、企業等との交流の機会をつくる ☆認知症の理解を深める機会の充実 ・啓発講座・出前講座の実施及び内容の充実 ・PTA等、様々な対象者別の勉強会の検討 ・地域、学校、福祉施設、企業等との交流の機会をつくる ☆認知症の方及びその家族の支援 ・家族同士が相談したり、話し合ったりできる場づくり ・認知症を隠さないで済む風土づくり ☆あいさつ運動の啓発 ・ふれあいフェスティバルへの参加、標語コンテストの開催の継続 ・「ふれあい豊田」等を活用したPR強化 ・たすきやのぼり旗を活用した啓発活動 ・福祉施設やサービス事業所、商店等への啓発、協力依頼 ☆あいさつ運動への参加促進 ・町内会自治会や個別の声掛け ・缶バッジの配布やたすき、のぼり旗の活用 ・ラジオ体操等の地域活動との連携 ・地域について語り合う機会を意識的につくる	○地区社会福祉協議会  ○連合町内会自治会  ○単位町内会自治会  ○民生委員・児童委員協議会  ○シニアクラブ連合会  ○消費生活推進委員会  ○保健活動推進委員会  ○保護司会
	<b>【子育て】</b> ・子育て中の親が孤立し、不安を抱えている。そこから虐待につながるケースもある ・親子で集う場はできつつあるが、親子で地域と交流する場が少ない ・子ども会の加入が減っている ・町内会・自治会に子育て分野に関する声が届いていない	○日常にお互いに声をかけあい、身近に話し合える関係をつくることで安心して子育てができる環境が整っている  ○子どもは社会の宝。地域情報の受発信をとおして、地域全体で子どもを育てる意識が作られている	☆世代間交流の場の充実 ・色々な人とつながる機会をつくる ・地産地消や食育を通じた世代間交流の機会をつくる ☆子どもに関する情報の受発信をすすめる ・子育て・子どもカレンダーの発行の継続(6回/年) ・子育てに関する地域の情報の発信を強化する ☆青少年を取り巻く環境に関する情報の共有をすすめる ・地域の中で、情報交換の機会をつくる ・連合町内会、単位町内会自治会や子ども会との連携強化 ☆身近な居場所やサロンの充実 ・子育てサロンの立ち上げ支援を行う ・子どもたちの居場所づくりの検討を行う ☆ボランティアを体験する場の充実 ・夏休みボランティア体験講座の実施継続	○食生活等改善推進員  ○スポーツ推進委員連絡協議会  ○青少年指導員協議会  ○保育園、幼稚園  ○小学校、中学校
健やかな心と体をつくろう	<b>【健康】</b> ・年代に応じた、健康づくりの取組の必要性が増している ・高齢化に伴い、外出の機会が減ってきている	○地域全体、世代をとおして、健康づくりのための活動に取り組んでいる ○健康寿命が延びている	☆多様な交流・活動の場の充実(再掲) ☆正しい生活習慣を身に付ける取組の促進 ・朝食を食べる習慣の啓発 ・定期健診受診の啓発 ☆各地域ごとの健康に関する取組の情報共有	○PTA  ○子ども会
地域に情報を広く届け、活用しよう	<b>【情報・連携】</b> ・推進体制を強化するためのはたらきかけが必要 ・各種委員会の取組や活動状況が共有されていない ・情報が住民一人ひとりにまでは行き届いていない ・広報紙やチラシをより多くの人に読んでもらう工夫が必要 ・町内会、自治会の各々の課題を知る機会が少ない	○情報が広く行き渡っている ○みんなが自分の住むまちに関心を持っている ○情報を共有することで、地域活動が活性化している	☆情報の収集と発信の充実 ・広報紙「ふれあい豊田」の内容の充実と発行の継続(3回/年) ・町内会自治会訪問による情報の収集及び発信 ・発信内容、方法の工夫を検討する機会の充実 ・回覧板、掲示板等の活用方法の検討	○福祉施設  ○ボランティア団体  ○NPO法人
日ごろから災害時に備える意識を高めよう	<b>【防災】</b> ・防災への関心・意識が高まりつつある ・備蓄物品の準備、避難場所・避難経路の確認など、災害時にどのように対応したら良いか理解する、より具体的な取組が必要 ・拠点防災や地域防災訓練は行われているが、参加者の増加が求められている	○災害時に手助けを必要とする人への配慮の視点、意識が高まっている ○住民ひとりひとりが防災に対する意識を持っている	☆日常での災害時の備えや災害時要援護者避難支援に対する意識を高める取組をすすめる ・住民の防災に対する意識向上の取組の実施(自助) ・日常の見守り体制の強化 ・向こう3軒両隣での安否確認体制の確立(近助) ☆既存の防災組織との連携 ・地域防災拠点、地域避難所等の防災組織と連携した取組の検討	

『安心・安全なまちになっている』